

公益社団法人私立大学情報教育協会  
2022年度第3回大学職員情報化研究講習会運営委員会議事内容

I. 日 時：令和5年2月6日(月) 14:00 から 15:00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 参加者：山名担当理事、木村委員長、中本副委員長、祖父江副委員長、緒方委員、大野委員、茂木委員、小野委員、尾崎委員、阪田委員、前川委員、東條委員  
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

今年度の大学職員研究講習会を振り返り、来年度講習会開催の方向性を検討した。

1. 開催報告及びアンケートから今年度の振り返りを行った。

- ・ ジャーナル用開催報告案をもとに、実施した内容を再確認した。
- ・ 1日コースアンケートでは、フリーディスカッションについて概ね評価があったが、部署別グループ希望、時間が短いなどの感想・意見があった。開催の日程・時間は問題ないとの記述が多かった
- ・ 2日コースアンケートでは、活発な意見交換と議論ができた意見があったが、個々で話をする事のないオンライン環境の課題はあり、一概に対面・オンラインの優劣は言えないとの感想もあった。受講は、自分の為になった、今後の業務への刺激になったなど内容的には評価があったと考える。

2. 委員からの振り返りと今後の講習会に向けた意見

- ・ 委員からは、対面ではないことからコミュニケーションは取りにくい、オンラインに慣れてきていることから抵抗はないように感じた。
- ・ オンラインの割には積極的に取組み姿勢から頑張ったと思う。経験年数に差があるグループは討論として噛み合わない部分も感じられた。
- ・ 議論では、他社を肯定する発言が多く、否定する発言が少なかったことが気になった。
- ・ フリーディスカッションは、1回目は時間がもう少し長くても良かったか、2回目は意見が出にくかったのか、事前に何かテーマを出した方が良いのではないかと。複数のテーマで希望するテーマでグループに参加する形式などグループ分けの工夫が必要ではないか。または、ワークショップのように講師を含めた意見交換の場を想定できないか。
- ・ 通信環境が悪くグループへの参加が不十分な参加者があった。
- ・ どこまで踏み込んでサポートすべきだったのか悩みどころであった、また、コミュニケーションはオンラインの課題を感じた、研修形態を考えたい。
- ・ 情報提供は好評だった、グループは同じ部署の方がより情報交換が進むのではないかと。
- ・ 若い参加者が多く、経験が不足、時間も限られていることから深堀が難しいと感じた。
- ・ オンラインと対面のハイブリットな可能性も考えてはどうか。
- ・ 3本の改革 DX テーマは、テーマ決めまで時間が掛かることもあり、具体的にテーマを絞って課題を提示し、仮想大学とした新しい発想の解決提案を検討させてはどうか。
- ・ 討議メンバーは、同じ部署が最初から輪に入りやすく共感しやすいとの意見もあった。
- ・ スキルが身に付く演習型の研修ができないか。また、職員向けのセキュリティ研修やセキ

セキュリティ対策に関するコンテンツを充実させてはどうか。セキュリティの重要性や個人情報の問題も考えられる。

- グループ討議の参加者は、入職 1~3 年や 3~5 年程度で大学の取組み等に馴染んだ時期の参加が望ましいのではないか、参加要件を絞ってはどうか。また、基礎的な情報リテラシーを取扱ってはどうか。
- 研究講習会開催の回数と方法について委員の多数決を取ったが、基礎講習コースと ICT 活用コース開催の統合か分離かの開催回数は、半々の割合となった。また、対面かオンラインか開催方法は、賛同が多い対面での開催を試みることにした。
- ここ数年オンライン中心だったことから、大学の出張予算も限られているとの意見があり、費用の関係から全面的な対面方式に参加者が見込めるかの課題を確認した。